

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	85%	10%	5%	0%	0%
児童	80%	15%	5%	0%	0%
教職員	90%	10%	0%	0%	0%

2 友達への思いやり

子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	80%	15%	5%	0%	0%
児童	75%	20%	5%	0%	0%
教職員	85%	10%	5%	0%	0%

3 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	75%	20%	5%	0%	0%
教職員	80%	15%	5%	0%	0%

一人一人の児童生徒の尊重の項目においては、「そう思う・どちらかといえば、そう思う」の回答の割合が、保護者と児童、教職員全てにおいて昨年同様高い割合を占め、特に児童、教職員では9割を超えている。また、友達への思いやりや道徳・心の教育の充実の項目においても、「そう思う・どちらかといえば、そう思う」の回答の割合がおおよそ9割を超える結果となった。ただ、保護者の回答としては、ややその割合が下がっているため、心かけやけ月間が終わってからも、ローテーション道徳等、学校での様々な取組の啓発が必要だと思われる。職員間では、定期的に児童理解の時間を設け、全職員で共通理解のもと指導にあたっている。今後も子どもたちが「学校は楽しい」と感じられるよう、保護者との協力体制をとりながら教育の充実に取り組んでいきたい。

②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	75%	20%	5%	0%	0%
児童	70%	25%	5%	0%	0%
教職員	80%	15%	5%	0%	0%

5 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	70%	25%	5%	0%	0%
児童	65%	30%	5%	0%	0%
教職員	85%	10%	5%	0%	0%

6 ICT活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	75%	20%	5%	0%	0%
児童	70%	25%	5%	0%	0%
教職員	80%	15%	5%	0%	0%

意欲的な学習態度の項目では、「そう思う、どちらかといえば、そう思う」と回答した児童の割合が、昨年度同様高くなっている。児童の「学習をがんばろう」という意欲を受けた形で、今年度は協働性のある研修を意図的・効果的に仕組むことで、全職員の授業改善に取り組んできた。その結果、校内研修の主題である「自ら考え、ともに伸びていく力」が高まってきているのではないかと考えられる。引き続き、朝学習や学び合い活動などの取組を継続させながら、学力の向上を図りたい。○「ICTの活用」については、今年度より本格的な一人一台のタブレット運用が始まったことで概ね高い評価となった。しかし、教職員と比較し児童・保護者はやや低い評価となっており、各々の意識にずれが見られる。保護者の評価については、家庭学習での利用が少なく、タブレット活用の実態が見えないことも一因ではないかと思われる。児童の意識が「使用している」から「活用している」になるためには、引き続き校内研修等を通して教職員の能力を高めていく必要があると考える。

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり

子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	70%	25%	5%	0%	0%
児童	65%	30%	5%	0%	0%
教職員	75%	20%	5%	0%	0%

8 児童生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	75%	20%	5%	0%	0%
児童	70%	25%	5%	0%	0%
教職員	80%	15%	5%	0%	0%

○感染症予防対策の継続、徹底を図りながら、基本的な生活習慣への取組が、児童の生きる力、体力・健康づくりの基盤になると考える。「元気アップ週間」「食育タイム」などの取組をさらに充実させていくことが大切である。児童と教職員の評価はほぼ変わらないが、保護者の評価が昨年度に引き続き低い値であった。児童へのはたらきかけが保護者にも伝わっていくように、日々の教育活動を改善していくことが必要である。

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

9 いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	85%	10%	5%	0%	0%
児童	80%	15%	5%	0%	0%
教職員	90%	10%	0%	0%	0%

10 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	75%	20%	5%	0%	0%
児童	70%	25%	5%	0%	0%
教職員	85%	10%	5%	0%	0%

11 共生社会を担う人材の育成

「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	75%	20%	5%	0%	0%
児童	70%	25%	5%	0%	0%
教職員	80%	15%	5%	0%	0%

上記の「児童生徒理解」の回答の割合と同じく、児童・教職員と保護者の間に大きな開きが見られる。毎月のきずなアンケート（夏休みの親子アンケート）だけでなく、日々家庭との情報交換など、家庭との連携を強化していくことが求められている。また、不登校児童に対する対応は、今年度から組織的に対応することを目的とした登校支援チームをさらに強化していきたい。○学校の支援体制については、教職員の「そう思う」の回答の割合が上がっているのに対し、保護者の「そう思う」の回答の割合は若干下がっている。学年会、校内支援委員会等での情報共有をさらに進め、学校全体が組織として、保護者と積極的な連携を図っていく必要があると考えられる。「共生社会を担う人材の育成」については、児童に比べ、保護者の「そう思う」が低い結果となった。正しい理解と認識を深めていくために「交流及び共同学習」をさらに積極的に進め、啓発を図っていく必要がある。

②特別支援教育の推進

12 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	85%	10%	5%	0%	0%
児童	80%	15%	5%	0%	0%
教職員	90%	10%	0%	0%	0%

13 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

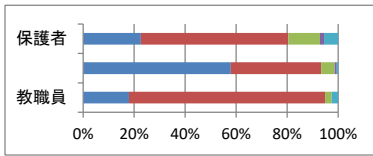
回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	75%	20%	5%	0%	0%
児童	70%	25%	5%	0%	0%
教職員	85%	10%	5%	0%	0%

今年度は、感染症予防も含め、おおむね安全教育に取り組めたため、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の回答の割合が9割を超えたと思う。避難訓練を振り返り、良かった点、改善点を職員に周知し、保護者にも伝えていくことが大切である。施設・設備の安全点検については、施設・設備の老朽化等に伴い、整備が必要となる箇所もある。毎月の安全点検を丁寧に行うとともに、関係機関等とともに連携を取りながら対策を講じていくことが必要である。

②最適な学習環境の整備

14 教育方針・目標の理解

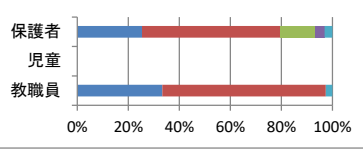
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



○学校だよりや学年・学級通信等で適宜本校の教育についてお知らせすることができた。また、コロナ禍で感染対策を講じながらできる範囲での行事を行うことができた。今後も積極的に情報提供を行い地域と共に令和の日本型学校教育に取り組んでいきたい。

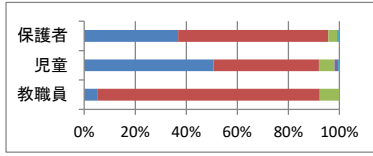
15 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



16 いじめを許さず、自分と他の人を大切にできる児童を育てる

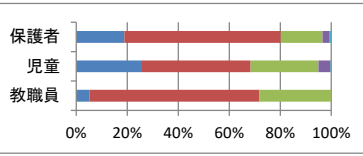
子どもは自分自身と他の人を大切にしていると思いますか。



○肯定的に捉えている傾向が多く見られる。そのような中で「そうは思わない」と否定的に答えた児童の数が、保護者や教職員より多く見られた。これは、児童自身が自分の思いを伝えられていない状況の表れではないかと考える。○話の聞き方、話し方に関しては、保護者・児童・教職員すべてにおいて、約20%の人が否定的な回答であることが分かった。校内研修で取り組んでいる「対話のある授業」の実践を継続し、これからも聞き方・話し方の向上に努めたい。○体力向上について昨年度に比べて保護者、児童ともに「そう思う」の回答の割合が減少した。特に児童に関しては大きく減少しており、児童の中に自覚が出てきたと思われる。全体での運動を呼び掛けるのは難しいが、学級単位や個人での運動を推進していきたい。

17 日々の授業を充実することで、自分の意見を言い合う子どもを育てる

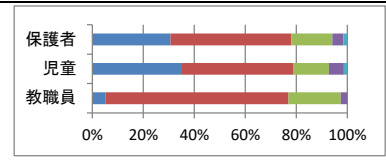
子どもは話をよく聞き、自分の思いや考えを発表することができていると思いますか。



○肯定的に捉えている傾向が多く見られる。そのような中で「そうは思わない」と否定的に答えた児童の数が、保護者や教職員より多く見られた。これは、児童自身が自分の思いを伝えられていない状況の表れではないかと考える。○話の聞き方、話し方に関しては、保護者・児童・教職員すべてにおいて、約20%の人が否定的な回答であることが分かった。校内研修で取り組んでいる「対話のある授業」の実践を継続し、これからも聞き方・話し方の向上に努めたい。○体力向上について昨年度に比べて保護者、児童ともに「そう思う」の回答の割合が減少した。特に児童に関しては大きく減少しており、児童の中に自覚が出てきたと思われる。全体での運動を呼び掛けるのは難しいが、学級単位や個人での運動を推進していきたい。

18 自己の体力を高める子どもを育てる

子どもは体力向上に努めていると思いますか。



○肯定的に捉えている傾向が多く見られる。そのような中で「そうは思わない」と否定的に答えた児童の数が、保護者や教職員より多く見られた。これは、児童自身が自分の思いを伝えられていない状況の表れではないかと考える。○話の聞き方、話し方に関しては、保護者・児童・教職員すべてにおいて、約20%の人が否定的な回答であることが分かった。校内研修で取り組んでいる「対話のある授業」の実践を継続し、これからも聞き方・話し方の向上に努めたい。○体力向上について昨年度に比べて保護者、児童ともに「そう思う」の回答の割合が減少した。特に児童に関しては大きく減少しており、児童の中に自覚が出てきたと思われる。全体での運動を呼び掛けるのは難しいが、学級単位や個人での運動を推進していきたい。

来年度の具体的な取り組みについて

○児童の豊かな心を育成するために「道徳の授業」と体験活動を関連づけて取り組み、人権教育を推進していく。また、ローテーション道徳を継続して行い、教師の持ち味を生かす。さらに、「きずなアンケート」や「心のアンケート」も継続して実施し、児童の一人一人の実態把握と一人一人に応じた指導に努めていきたい。

○子どもの表情やつぶやき等を丁寧に見つけ、教員自ら進んで言葉かけをし繋がりをつくるきっかけとしていきたい。

○「自ら学び、ともに伸びていく子どもの育成」のテーマで研究を行ってきたが、教師が主体的に学ぶ研修を継続し、授業改善・教師の指導力向上を図っていく。思考力・判断力・表現力の土台となる「書く力・読む力」をつけるために、引き続き「読書」と「視写」に取り組んでいく。また、熊本市学力検査の結果を活用し、学力の把握・分析をすることで本校の課題の一つである学力の向上を目指す。また校内研修等を活用し、タブレット活用方法を共有することで積極的な実践に繋げていく。

○いじめ・不登校対策として、教師全員できずなアンケートや不登校児童（不登校傾向児童）の情報を共有すること、そして組織全体で防止策・支援策を行っていくことに力を入れていきたい。また、年々さまざまな困り感を持つ児童が増えてきており、小さな懸案事項においてもケース会議を開き、専門機関等との連携を積極的に強化していきたい。

○不登校傾向児童や個別に配慮が必要な児童について、特別支援教育コーディネーターを中心に、家庭との連携を深めながら、子どもの実態と教育的ニーズを把握し、校内支援体制の充実を図る。「交流及び共同学習」を推進し、正しい理解と認識を深め、共生社会の実現を目指していく。

○生徒指導部会、校内支援委員会、研究推進委員会の各部会を活性化し、学校教育の組織力をさらに高める。

○感染症予防対策の継続、徹底を図りながら、基本的な生活習慣への取組が、児童の生きる力、体力・健康づくりの基盤になると考え、「元氣アップ週間」「食育タイム」などの取組をさらに充実させていく。

○今年度はスポーツテストを実施できた。結果として特に反復横跳びの数値が全国のレベルに対して低かった。そのため、敏捷性が伸びるようなスポーツ企画を立てて実施できればと考える。

○校区の実態を踏まえた交通指導を継続して行い、児童の危険予知能力、回避能力の育成に努める。また、学習環境の整備に努め、安全教育の充実を図る。引き続き、毎月の安全点検を丁寧に行い、関係機関等と連携を図りながら対策を講じて、児童の安全管理に努めていく。

○避難訓練の振り返りをし、よかった点や改善点を出すことで、職員の間で危機管理意識を高め、各担任の学級指導に生かしてもらうようにする。

○「新しい生活様式」を基に、基本的な感染症予防対策に取り組み、家庭や地域と連携を図りながら児童の「気づき・考え・実行」の実践力に努める。

○コロナ禍における新しい生活様式の蓄積化を図り、地域に根ざした開かれた学校づくり推進のため、本校区の特性を生かした学習支援や環境整備、学校安全支援のため連携を図る。また、学校ホームページや学校だより等を活用し学校教育活動の更なる公開に努め、学校への家庭・地域の理解を深めていく。

学校関係者評価

○児童が登下校中のすれ違う人への挨拶をすべきだと思いましたが、最近考えが変わりました。挨拶の励行に関して、相手を見極めなければいけないと。

○警察からの伝達で、児童たちへの不審人物のつきまといや誘い等が数多く見られ心配でもあります。我々町民が見廻りを数多くする様にすれば解決策も見えてくるような気がします。見廻りを増やしたいと思えます。ただ路上で児童とのすれ違い時にこちらから挨拶すると殆どの子が元気にはつきりと返してくれるので嬉しくなります。

○グラウンドのトイレの改善

○体調不良、不登校の対応に担任ではない方がよい場合があるように思います。

○登下校や運動会での子どもたちを見てみると、元気で学校生活も日常も楽しんでいるように感じました。

○先生方は、厳しい環境の中で（コロナ禍・働き方改革・時代の流れ）それぞれ立場から子どもたちに対応されているように思います。

○地域に出来ることはわずかですが、開かれた学校づくりと子どもたちをこれからも立守っていきたくと思っています。